

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300013		
法人名	社会福祉法人 六親福祉会		
事業所名	グループホーム牛津あしはらの園		
所在地	佐賀県小城市牛津町牛津80-1		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist/html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年11月27日	外部評価確定日	平成25年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・地域に根ざした施設になるように、地域との関わりを持つようにしている。・ご利用者個々に合った生活の支援ができるように心掛けている。・ご家族様が安心して頂けるよう、こまめな状態報告を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所のすぐ近くには、商店や住宅街、神社、寺、高校、田園等がある。利用者にとっては生活のにおいや季節の変化、馴染みの場所を感じる事が出来る。また、日常の外出もしやすく、車椅子での散歩等の支援にも良い場所でもある。地域での認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地元自治会にも加入している。清掃活動に参加する、近くの方から野菜をいただく、推進会議の際に産業祭り参加の誘いを受けるなど、地域との結び付きも次第に強くなっている。日常の支援にあたっては、利用者の視点で接することを基本にしており、職員の笑顔での支援や接遇は、利用者にも笑顔をもたらしている。協力医療機関からの往診や夜間でも相談できる体制には、家族も、健康管理、医療面、安全面を含めて、家族に安心感を与えている。家族が困っていることや不安、要望等にもよく耳を傾け、良きサービスに心を砕いている。各居室から車椅子でも直接外に出る事ができ、非常時に備えて安全面に配慮した、ここならではの事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室や職員休憩室に理念を掲示し、職員一人ひとりが理念の共有に心掛けるようにしている。	事業所設立当時の理念を地域密着を踏まえた理念に再検討している。定例の会議や日頃の支援の場において、運営理念に立ち返って課題の解決に努めている。事業所内の要所に掲示されており、職員は理念のポイントを常に意識しながらの支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の代表者として区長・老人クラブ会長・民生委員4名に運営推進会議に出席して頂いている。	地域の自治会にも加入し、回覧板や区長から地域の情報を得ている。地域の認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、敬老会にも出席する等、地域とのつながりを重視している。神社の清掃にも出ていたが、今は地域の好意で免除してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、市職員・包括支援センター職員・地域住民を委員とし、情報交換を行っている。	ホームの現状や行事の報告だけでなく、地域との情報交換や委員からの意見や質疑等もあり、有意義な会議になっている。地域委員から誘いがあった産業まつりへの参加も計画していたが、当日あいにくの雨天で参加を見合わせた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小城市高齢福祉課の係長に運営推進会議の委員をお願いし、小城市との連携を密にしている。	運営推進会議の機会だけでなく、責任者は度々行政福祉課や広域介護事務所に出かけ、施設が抱える課題を共有したり、最新の情報を得るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ミーティング時に勉強会を行っている。	身体拘束に伴う弊害は、全職員が研修会や自分たちの勉強会等を通してしっかりと意識し、拘束の無い支援が行われている。これまでに身体拘束の事例はない。言葉等による心の拘束もないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティング時、虐待防止について職員へ話している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修や介護支援専門員協議会の勉強会に出席し、権利擁護について学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書及び、パンフレット・利用料金表を用い十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族面会時に要望を伺ったり、ご利用者の近況報告を行っている。	家族からの要望や意見は、面会時に必ず声をかけて聴いている。面会が少ない家族にも連絡を密にとっている。職員の異動に伴う不安についても丁寧に説明し、理解を得る様に努めている。意見や要望は、即時に検討し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員ミーティングを行い意見交換の場としている。	忌憚なくお互いに意見や提案を出しやすい職員同士の関係である。管理者は普段から職員へ指導するだけでなく、逆に職員に介護について具体的に教える事も多々ある。また、職員の持っている良さを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行っている。また、年2回、正規職員への昇任試験を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3月に新任職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム委員会に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご利用者の状態把握を行っており、職員にご利用者の望む生活像や対応の仕方を周知徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の契約時や、ケアプランの更新時に聞き取りを行っている。また、ご家族の面会時に近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時や入所前の状態把握の際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご利用者ができることを探し、洗濯物量み等をほぼ毎日して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時にグループホームとはどういう施設なのかをご家族に説明し、ご利用者に自分で行えることはして頂くようにしている。また、施設・職員で対応できない場合等は、ご家族に連絡し協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族連絡は適宜行っており、面会等も多数来られている。	広い事業所内の敷地や周りを車椅子で散歩している。近くの神社や寺に出かける機会もある。馴染みの神社への初詣やお寺に出かける事もある。しかし利用者の高齢化や車椅子を利用するの支援が増えてきたため、近くのお店や外食に出かける事が少なくなった。知り合いの方の面会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席順等に配慮し、話の合う方同士を近くの席にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ、契約終了者からの相談なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス計画書(1)や基本情報に本人の意向を書くようにしているが、補足として、ご家族の意見も頂いている。	基本的情報や定期的なアセスメント、介護計画の作成段階、日常生活での関わりや何気ない会話の中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については、ご家族や本人から聞き取り、基本情報に記載するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより心身状態・有する能力の把握に努めている。1日の過ごし方については、サービス計画書(3)に記載するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員ミーティングを行い、意見交換の場としている。また、サービス計画書の更新時にサービス担当者会議を行い、議事録を残している。	全職員で1人ひとりの支援について検討し、利用者の視点に立った極めて具体的で実現可能な計画である。定期的に又は必要に応じて随時評価を行い、現状に即した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記載するよう、職員の目につきやすい所に計画書を置いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分のことを心配されたり、以前デイサービスやショートステイの利用をされていた為、「帰らないといけないのか？」と問われることが多い。声掛けにて対応し、またご家族に相談して面会に頻回に来て頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で地域との交流を増やしていくように進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、協力病院より往診に来られ、また往診の為の同意書を医師よりご家族に説明されている。 必要時には受診の支援を行っている。	利用者・家族の希望する医療機関での受診である。協力医療機関からの毎月2度の定期的な往診だけでなく、主治医が勤務の帰りに立ち寄ることも多い。また、夜間であっても相談できる。専門医療機関での受診は、主治医の紹介により治療が受けられる様支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、医療上の管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時に重度化した場合の指針について、書面で説明し同意を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針について、書面で説明し同意を頂くようにしている。	入居時に丁寧に説明を行い、納得の上、文書で意向を確認している。病状が急変する場合もあり、常に家族や関係者と連絡を密にしている。なお、看取り介護は現状では困難な面があり、支援は行っていないことも説明し、納得してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練等は行えていないが、救急対応マニュアルを作成し、急変時には協力病院にすぐに連絡するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網を各職員に配布している。また、消防計画に基づき年2回避難訓練を計画している。	年に2回の避難訓練は、夜間の火災発生を想定している。運営会議の委員や地域住民も参加して行っている。地元消防団や消防署とも連絡を取り、指導も受けている。各居室は窓から直接に車椅子でも避難できる構造になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	良くない言葉掛けをすることも時にはあり、管理者や職員同士でミーティング時に注意するようにしている。	利用者の尊厳を大事にし、利用者自身の視点に立った支援を行う事を基本にしている。気になる言葉かけや接遇があった場合は、即時、互いに話し合ったり、管理者からの指導があっている。個人情報の管理はきちんと出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択等をご利用者にして頂くようにしている。また、サービス計画書の更新の際に意向を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課計画をそれぞれ作成しており、希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに、ご家族に衣類の入れ替えを依頼している。また、誕生日等のプレゼントに希望の品を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はほとんど一緒にはできていないが、メニューを見ながら料理の好みについて聞いている。	献立は管理栄養士が作成している。調理は対面式の台所で行っており、利用者の五感を刺激している。食事の際には職員が笑顔で話しかけながら、視線の高さを同じにしての食事介助である。食べこぼし等にはさりげなく対応している。数人の方の食事エプロン使用は意向を確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、協力病医の医師に報告している。また、食事の量を調節し食事形態等も相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、週3回の義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月ミーティング時に個人の排泄について話し合っている。自立に向けた支援を行っている。	排泄に不安を持っている利用者もあり、言葉かけや見守り、排泄パターンの確認で、不安解消に努め穏やかな気分で過ごしてもらっている。他の利用者にも時間毎に声かけや誘導を行い、気持ちよく過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方については、飲み物の種類を変えたり、ゼリー状にして提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	あらかじめ曜日・時間帯を決めており、個々に応じた入浴の支援はできていないが、強い要望がある場合は対応するようにしている。	原則的に週に2回の入浴であるが、それにとられた支援ではなく、お湯の準備は毎日出来ている。車椅子の利用者も入浴用の椅子を利用する等の工夫をしながらの入浴支援である。就寝前に入浴希望には職員配置上から困難である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中きつそうにされていたり、居眠りをされている方には、ソファに案内したりして1~2時間ほど休んで頂いている。また、使い慣れた枕や毛布等を持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者それぞれが服用されている薬の一覧表を作成しており、随時確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に、ご家族時へご利用者の嗜好の確認を行い、手作業や畑仕事をして頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイクを季節ごとに計画し、四季を感じて頂くように支援を行っている。また、自宅に帰りたいと希望がある方については、ご家族の理解と、そのご利用者の状態を勘案し外出支援を行っている。	桜、彼岸花、しちめん草、コスモス、バルーンの見学等にも出かけ、四季に応じた支援を行っている。日常的には車椅子での散歩支援が多い。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者に手紙が来ることはあるが、それに対して返送する支援は行えていない。しかし、許可を得て職員も読ませて頂き喜びを倍増されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に誕生会等の行事の写真を掲示し、来客やご家族が自由に見て楽しんで頂くようにしている。また、居室には以前から使われていた家具等を持ち込んで頂くようにしている。	広い窓から差し込む自然光でホールが明るく、ここでゆっくりと過ごす利用者が多い。夏場の日差しが強い時は日差しを調整している。室温、湿度も快適に過ごせるように適度に調節している。トイレも便器の高さが利用者に使いやすい所を出来るだけ利用してもらっている。廊下の中央部にある空間で過ごす利用者も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方を同じ席にしたり、ホールにソファを置き一人で好きな場所に掛けて頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご家族に説明し、使い慣れた家具等を持ち込んで頂くようにしている。	就寝用の枕、お気に入りの洋服、以前使っていた時計、鏡台、家族の写真、整理用の筆筒など、家族の協力を得ながら、その方らしい居室になっている。居室の安全管理、清掃等にも配慮し、利用者が落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等が分かりやすいように、大きい字で場所を表示したり、場所を覚えてもらうように声掛けを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない